



身近にある石造文化財

— 庚申塔 —

ゆう き たかのり
結城孝典 (友の会会長)

私たちの身のまわりには、先人が残した多くの石造物があります。その中でも身近で代表的なものが庚申塔です。私の住む吉野川市山川町では、町内の庚申塔について昭和 50 (1975) 年に、山川町連合婦人会により詳しく調査され、宇山清人編『路傍の石仏 庚申』という冊子で報告されています。その成果をもとに、再度加筆、修正されたものが『改訂山川町史』(昭和 62 (1987) 年) や『阿波学会紀要』第 58 号 (平成 24 (2012) 年) に掲載されています。

それらの記述を見ると、山川町には庚申塔が 231 基あり、県内最多である阿波市阿波町の 253 基に次ぎ、市場町の 213 基よりも多いとされています(『阿波学会紀要』第 58 号)。山川町は吉野川をはさみ阿波市阿波町・市場町とともに県内でも庚申塔が集中する地域といえます。

では、こうした庚申塔が建てられたのはなぜでしょうか。中国の道教という思想には、三尸説という考え方があります。人間の体には三尸という虫がいて、自分が自由になりたいために、いつも人間が早く死ぬことを望んでおり、庚申の日の夜、人間が眠っている間に体から抜け出し、天に昇り命をつかさどる天帝にその人間の日常の罪や過ちを報告します。天帝はそれを聞いてその人間の死期を早めるというのです。

三尸は人間が眠らないと体から出られないの

で、それを防ぎ長生きするためには庚申の日に眠らず過ごすことが必要と考えられたのです。

この考え方が奈良時代に日本に伝わり、まず、宮廷貴族、その後は武士に広まり、仏教や神道とも融合し民衆にも浸透していくことになります。そして、僧侶や修験者の指導で各地に団体が組織され、供養のための庚申塔が造られるようになったと言われています。

ここで山川町の諏訪地区にある特徴的な庚申塔を紹介します。JA 徳島県麻植西部支店から北西へ約 200 m 行った道沿いに庚申塔を中心とした石塔群(図 1)があります。その中には、口



図 1 諏訪石塔群の全体像
猿像を矢印で示している



図 2 庚申塔(猿像)の写真とその線画

を押さえた猿の丸彫り石像の形態をとった庚申塔があり、「見ざる、言わざる、聞かざる」の「言わざる」にあたります（図2）。

庚申塔に猿や鶏の像が刻まれるのは一般的で、右横の庚申塔の一つにも青面金剛しょうめんこんどうの下に三匹の猿と二羽の鶏とりの像が刻まれています。単体で丸彫りの猿の石像が建てられているのは珍しいことです。大きさは台座を含めると高さ約65cmの砂岩製で、台座に「文化二（1805）乙丑うしてん天ふな 船戸惣講中そうこうじゅう 八月吉（日）」と刻まれています。もう一基、破損して足と台座のみが残る、おそらく猿と思われる別の種類の石像も残されています。県内では猿の丸彫りの石像は、三好市井川町いかわちょうでも報告されています（図3）。

今回、山川町の猿の石像について紹介しましたが、皆さんの自宅の近くにも様々な石造物が建てられていると思います。調べてみると新たな発見があるかもしれません。庚申塔のような石造物だけでなく、身の回りの植物、動物、地形や地質、歴史や文化を知ることは大切です。それは自分たちの住む場所が好きになり、解決すべき課題にも気づき、自分事として地域の課題と向き合い、考える意識をはぐくむことにもつながるからです。そうした意味で、我々博物館友の会の活動も、今、強調されている「地方創生」につながる切り口のひとつではないかと思っています。



図3 三好市井川町いかわちょうの猿像

徳島県内の資料館紹介

ほんだ そういち
本田壮一（友の会副会長）

○馬原ダニの資料館

所在地：〒779-1510

阿南市新野町是国56-3

連絡先：電話 0884-36-3339（馬原医院）

アクセス：JR新野駅（牟岐線）から徒歩3分で、隣接する「あかりカフェ」に駐車場があります。



馬原ダニの資料館の入口

1984年、医師の馬原文彦氏まはらふみひこ（阿南市）により、マダニが媒介する「日本紅斑熱にほんこうはんねつ」という感染症が報告されました。2012年7月、住民への啓発を目的として、この「馬原ダニの資料館」がオープンしました。残念ながら、常駐の担当者がおらず、見学するには馬原医院へ事前に予約する必要があります。見学時間は9時から17時までです。

この資料館には、ダニが媒介する病気の資料や、ヒトの健康に害を及ぼすダニの標本や資料が展示されています。マダニ、ツツガムシ、トゲダニなど病気に関係するダニが200種、約2万点が展示されています。

2023年9月には、第30回ダニと疾患のインターフェースに関するセミナーが開催されました。私も参加し、講演や一般演題とともに、マ

ダニ採集・同定の実際を知ることができました。

なお、春から秋にかけ、徳島県内では、日本紅斑熱（リケッチアという微生物による感染症）^{じゅうしょうねっせいけつしゅうばんげんしゅうしょう}や重症熱性血小板減少症（別名 SFTS、ウイルスによる感染症）の患者の発生が危惧されます。媒介するマダニや、徳島県内で発見された疾患を知るのに役立ちますので、この資料館の見学がおすすめです。



馬原文彦氏（左）と筆者

【参考 URL】

- 1) 馬原医院 <https://maharahospital.jp/>
- 2) ダニと疾患のインターフェースに関するセミナー
<http://www.sadi-web-site.com/>

友の会行事報告

愛媛県伊方町・佐田岬半島 めぐりバス旅行

- 日 時 6月15日（土） 6:00～20:00
- 場 所 愛媛県伊方町
（佐田岬半島ミュージアムなど）
- 担 当 徳野壽治（友の会役員）
磯本宏紀（博物館学芸員）
長谷川賢二（博物館学芸員）
外村俊輔（博物館学芸員）
丸山直生（友の会事務局）
- 参加者 16名

愛媛県伊方町は、四国最西端の佐田岬半島に位置します。太平洋と伊予灘^{いよなだ}、二つの海を割くようにのびる日本一長いこの半島には、その地に根付き、受け継がれてきた自然や歴史、文化がありました。2023年8月にオープンした「佐田岬半島ミュージアム」を同館館長 高嶋賢二^{たかしまけんじ}氏に解説してもらいながら見学しました。このミュージアムでは、ミュージアムサポーター「佐田岬みつけ隊」による市民参加型の博物館活動が続けられてきました。その後、ミュージアムに近い伊方町三机^{みつくえ}地区の町並みを散策しました。最後に「せと風の丘パーク」で絶景を堪能しました。（丸山直生）

Voicé 参加者の声

●福田富紀代さん

佐田岬は何度か行ったことがありますが、単に九州への通過地であり、降り立ったことはありませんでした。「佐田岬半島ミュージアム」館長の高嶋さんの分かりやすく親しみのある説明で、40 km と日本一細長い半島、その特異な地形ゆえに生じる自然のおもしろさや、半島内に点在する 55 の集落それぞれで独自に発展し、今もなお息づき伝承されている文化も、とても興味深く知る事ができました。さらに、実際にその場を案内していただき、これぞ博物館友の会の旅行だと思いました。次回も友の会ならではの企画を楽しみにしております。

●吉岡 滋さん・啓子さん

他のツアーと違い、学芸員さんの知識や解説により、知らない世界を知ることができました。また、古い町並のフィールドワークでは、海風を感じながら石造物等を見て回りました。自然や歴史、文化にふれ、心がイキイキ、ワクワクして満足でした。「佐田岬みつけ隊」の活動、

きゅうぐんしん しおなりほりきり くじらづか あまし
九 軍神、塩成堀切、銅鉦山、鯨塚、海士、瀬
戸内海、そして宇和海が印象に残りました。

●^{たかひらかず よ}高平和代さん

案内があった時から、ぜひ参加したいと思い、期待していました。佐田岬半島ミュージアムでは、佐田岬の自然や歴史を学び、生活道具類も多数見ました。道具類は、どちらかというと海に関するものが多いだろうと思っていましたが、意外にも、山間部に暮らしている私に身近なものが多かったので、懐かしさを感じさせました。

フィールドワークで案内していただいた「須賀の森」という砂州では、自然を観察するとともに、そこに集まっている神社などが個性豊かで驚きました。

とても楽しい一日を過ごすことができました。次のイベントを楽しみにしています。



佐田岬半島ミュージアムにて
高嶋賢二館長による展示解説

●^{いし おかずひと}石尾和仁さん

「佐田岬みつけ隊」の活動の一端を知ることができて勉強になりました。

三機の集落内を散策できたのは、このバスツアーならではのことで、個人的な旅ではミュージアムには行っても集落内を歩くという行為はしなかったかもしれません。大変良かったです。

●^{か がわみつ こ}香川光子さん

四国の東端から西端へ、ワクワクのバスツアーでした。細く長く、ちょっと欠けた鋸歯のような佐田岬半島。その独特な地形から生まれた集落ごとの異なる風習。地域住民とつくりあげたミュージアム。宇和島のお殿様お気に入り^{う わ じ ま}の三机湊^{みなと}。2つの海の見える幻想的で美しい景色などとても満足な1日でした。

丸山さんのてるてる坊主さん、どうもありがとうございました。



● M.O さん

楽しい一日をありがとうございました。長い移動時間でしたが有意義な時をすごすことができました。

狭いスペースでもしっかりとした展示室・体験コーナーの見学、三机湊、古い街並みの散策、最後はパノラマに広がる風景、立ち並ぶ風車、久々の旅を堪能させていただきました。

●^{た なかせつ こ}田中節子さん

友の会行事の参加も佐田岬半島も初めてでした。天候にも恵まれ素晴らしい景色を見ることができました。自然、歴史、民俗など見応え満載でした。学芸員さんの解説付きの見学は嬉しいです。とても楽しい1日を過ごすことができました。また友の会行事に参加してみたいと思います。今後も、屋外行事の際には、絶大な効果のある、友の会事務局丸山さんのてるてる坊主をお願いします。



せと風の丘パークにて記念撮影

友の会行事報告

夜の文化の森たんけん

○日 時 7月27日(土) 19:00～21:00

○場 所 文化の森総合公園

○担 当 ゆう き たかのり 結城孝典 (友の会役員)
とむらしゅんすけ 外村俊輔 (博物館学芸員)
すず き ゆう や 鈴木佑弥 (博物館学芸員)
まるやまなお き 丸山直生 (友の会事務局)

○参加者 18名

外村学芸員から注意事項や観察のポイントの説明を聞いた後、セミの羽化やクモが獲物を狩る様子などを観察しました。ライトトラップでは、白い布にライトを当て、光に集まる昆虫の観察・採集をしました。カメムシの大量発生が新聞に掲載されていましたが、予想通りカメムシの仲間が多かったです。最後に、クヌギ林でカブトムシやクワガタなどを採集しました。昼間とはまるでちがう「夜の自然」を観察できました。(丸山直生)

Voic^e 参加者の声● た なかせつ こ 田中節子さん

夜の文化の森ってどんな感じなんだろう？昼間は見かけない夜行性の虫がいろいろ見えました。見所も沢山ありあちらこちらで歓声が上がリ、虫好きの子供達はよく知っているなと思いました。

鈴木学芸員がクモの巣に葉を投げるとクモが寄って来てエサかどうか確認し、違うとわかるとポイッと外して捨てるのがおもしろかったです！

● か がわのりひろ 香川周大さん

今回の友の会のイベントに参加させていただき、初めて夜の「文化の森」を歩きました。黄

昏時から徐々に人が少なくなっていく感じから、少し淋しさを感じる雰囲気がとても新鮮に思えました。そして、人が完全にいなくなっからは生き物たちの空間！カブトやクワガタといった子供たちに大人気の昆虫はもちろん、エダナナフシの交尾や多様なクモ類を観察できて、とても面白かったです。ライトトラップには、私が専門としているカメムシ類が、数種類もたくさん飛来しており、生物相を想像することができました。外村学芸員がしてくださった飛来するガ類の解説も楽しく聞くことができ、シバツトガのように、その場所を代表するような生き物も見ることができました。次回もまた参加したいです！



クヌギの樹液に集まるカブトムシを発見！

● なかおか か な こ 中岡加奈子さん

昆虫が大好きな子ども達3人をつれて参加させて頂きました。クモやナナフシ、他の虫もたくさんいましたが、学芸員の方は全部名前を知っていたし、それに説明まで加えてくれて子ども達は熱心に聞いていました。ライトトラップもYouTubeでしか見たことがありませんでしたから、実際にトラップを仕掛けていただき、感動しました！！個人ではできないことなので。この参加を通して、子ども達も一まわり成長できました。ミヤマクワガタを初めて見

て、子どもは大喜びでした！！また参加したいです。

●^{わたなべ ゆうき}渡邊優毅さん

夜の虫のことがいろいろ分かりました。カブトムシをつかまえる時間などが分かっておもしろかったです。またさんかしたいです。



噴水広場にて記念撮影

友の会行事報告

トクシマ恐竜展2024 展示解説

○日 時 9月7日(土) 13:30～15:30

○場 所 徳島県立博物館

○担 当 ^{こうざかとしゆき}幸坂敏行 (友の会役員)
^{つじの やすゆき}辻野泰之 (博物館学芸員)
^{まるやま なおき}丸山直生 (友の会事務局)

○参加者 29名

辻野学芸員の解説により、「トクシマ恐竜展2024」を観覧しました。どの展示物にも、化石発見時のエピソードがありました。日本で初めて発見された恐竜化石や、徳島で発見された恐竜化石などについて説明を聞くと、展示物により理解できました。恐竜の大きさや迫力を感じながら、楽しい思い出づくりができました。(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●^{ひら お じゅん こ}平尾 順子さん

今回は、辻野先生の発掘にかかわる、あれやこれやの業界トークをまじえた「ぜいたくな展示解説」でした。徳島→日本→世界の恐竜化石の順に解説を聞きながら、こんな生き物が大昔の徳島にいたのか、よく化石が見つかったなあと感動していたら、最後の最後に巨大な骨格標本と動く恐竜ロボット！！すごい迫力でした。やられた！！って感じです。

泣き逃げる小さいお子さんがあちこちにいて、それがよけいに恐竜の大きさ、こわさを強調していました。徳島でこんなすばらしい恐竜展を見ることができて感謝です。

●^{くわうち たかし}桑内 隆さん

化石ばかりの恐竜展も、説明のおかげで少々は理解することができました。

大地から化石を探し出し、クリーニングし、調べるという気の遠くなるような作業に敬服します。自然の変化への対応とは言え、あの恐竜の仲間が鳥に進化したとは驚きです。



大迫力のユタラプトルを背に
モロッコで産出した恐竜化石の解説

●吉岡 滋さん

徳島県立博物館が「恐竜の研究拠点」になり
そうだと感じました。大型模型や実物化石をは
じめ、映像やイラストなどの展示に加え、勝浦
町での化石発見から30年を経た現在の発掘調
査についても知ることができました。日本だけ
でなくモンゴル、イギリス、南米の恐竜が大集
合。地質学、古生物学、生命科学、そして生命
体としての地球など、色々なことを感じ考えさ
せられるすごいイベントでした。



博物館入口のティラノサウルス頭骨化石
の前にて記念撮影

友の会行事報告

どうきょう
銅鏡をつくろう

- 日 時 11月4日(月・振)
10:00～12:00
- 場 所 徳島県立博物館実習室
- 担 当 おおすぎようこ
大杉洋子(友の会役員)
うえ ち たけひこ
植地岳彦(博物館学芸員)
おおしおけいいちろう
大塩啓一郎(博物館学芸員)
まるやまなお き
丸山直生(友の会事務局)
- 参加者 16名

銅鏡は、青銅^{せいどう}で作られた鏡です。弥生時代には、神秘的な能力が宿っていると考えられ、限られた者しか所有できない宝物だったことや、

古墳時代前期の古墳から出土した三角縁神 獸^{さんかくふちしんじゅう}
鏡^{きよう}の解説を植地学芸員から聞いた後、融かした
金属を「鑄型^{い が た}」に流し込んで、直径5cmのミニ
チュア銅鏡を作りました。(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●住友るり子さん・藤坂美涼さん

解説や資料もあって、わかりやすかったです。
謎の銅鏡の再現された型を使って作ることがで
きた事も良かったです。作った銅鏡は大切にし
たいと思います。

今度は銅鐸^{どうたく}を作りたいと思うので、また
来年度以降に企画してほしいと思います。

●桑村明美さん

いろいろな所で銅鏡の展示を見たのですが、
模様のある面(裏面?)が主でした。

物が写る鏡面を見たくて、参加を申し込みま
した。金属を流し込む型がシリコンだったのは
「今やなあ〜」でしたが、磨くのは当時の人と
同じ自分の手!!いっしょうけんめい磨き続け
て、顔が写った時は、隣の人と喜び合いました。
とても楽しい時間でした。



金属を流し込むための鑄型を準備する
参加者のみなさん

●^{きたおか り さ}北岡理沙さん

歴史好きな子どもと2人で参加しました。以前、『博物館ニュース』に「三角縁神獣鏡」について植地先生が紹介されていた記事を親子で読んで参加したので、青銅鏡に描かれている神獣や文字について理解がより深まりました。

県立博物館で所蔵されている「幻」の絵を再現した青銅鏡を作ることができて、貴重で希少な鏡を手にすることができた喜びがあります！実際に作ってみて、鏡の縁が三角になっているのもよくわかりました。家に帰ってから、^{けん ま}研磨^{ざい}剤を買って、さらに磨き上げました。子どもも大切に部屋に飾っています。

● M.O さん

楽しい時をすごすことができました。日頃手にするのでできない物づくり、本当にめずらしい体験ができました。ありがとうございます。小さい子も真剣にとりくみ、けがもなくがんばっていた姿を見て、ほっこりしました。今後、また^{どうほこ}銅矛やガラス玉をつくれるとうれしいです。

● m and M さん

とても楽しく、友の会でしかできない体験でした。緊張したのは、溶かした合金を鋳型の小さな穴に流し込むときです。その後の磨きの作業は簡単そうで実はコツがあり、根気も大事！まん中ばかりを磨くと縁の磨きがおそろかになり、また磨いて磨いて……。このミニ銅鏡は令和6年の「MYお宝」です。大事にします。

日本の古代史を学び直すきっかけになりました。近い将来に実物の三角縁神獣鏡が発見されますように！見たいです。

●^{まつば か}松場まど香さん

こういった機会がなければ絶対に経験することなどないであろう“銅鏡づくり”を体験させていただいて、とても面白かったです。行事後、子どもと一緒に常設展をのぞきに行ったのですが、そこで展示されている銅鏡を見て、子どもも「私が作ったのと同じやつ！」と嬉しそうにしていました。こういった経験が物事に対する興味を持つきっかけになるのだらうと思いますし、そういう場を用意していただいたことをありがたく思います。また別の行事にも参加させていただこうと思っています。



つくった銅鏡(下図)を手に記念撮影



アワーミュージアム 第75号

2025年1月31日発行 : 徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内

TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197 E-mail: mus-tomo@bunmori.tokushima.jp